

◎グローバルベルス、東京プロムにきょう上場  
―売上100億へ、認知度向上で人材確保

総合不動産事業を展開するグローバルベルスは20日、東京証券取引所の東京プロマーケットに上場する。藤田賢一社長は本紙の取材に「早期に売上高100億円規模へと成長させる。上場で認知度を向上してガバナンスも強化し、人材の確保・育成につなげる」と展望を語った。同社は、「グローバル」を冠したシリーズで展開する分譲マンション、一棟アパートを始めとした住宅事業や、収益物件の開発・管理、不動産クラウドファンディングなどの各種事業で成長を狙う。

藤田氏は直近の業績について「24年3月期は売上高が70億円に到達し、営業利益も9億円台だった」と話す。23年3月期個別決算では売上高が60億9300万円だったため、前期比だと2ケタ増だ。主力の分譲マンション事業に関して「好調な市況に伴い順調。東京・大田区の久が原や浦和のほか、城北でも事業を行う。今後も知見を持つ首都圏を中心に駅近に絞った用地取得を続ける」(藤田氏)とする。権利関係が複雑で借地権などの土地でも、隣地を含めた活用を提案するソリューションを得意とし、収益物件の開発や管理による収益も拡大する。不動産クラウドファンディング事業は「大家どつとこむ」の名称で展開。3年ほどの累計で85案件、会員数が7300人、投資額は約35億円まで拡大した。

同社は、戸建て住宅の開発・販売を中心としたキートンが、21年4月にプロセスペクトから8000戸以上の供給実績のあるマンション事業を承継して、総合不動産デベロッパーとして体制を整えた。現在の社員の平均年齢は46歳であるため、上場による認知度・信用の向上やガバナンス強化により魅力ある職場づくりを行い、若い人材の獲得と育成に取り組む。